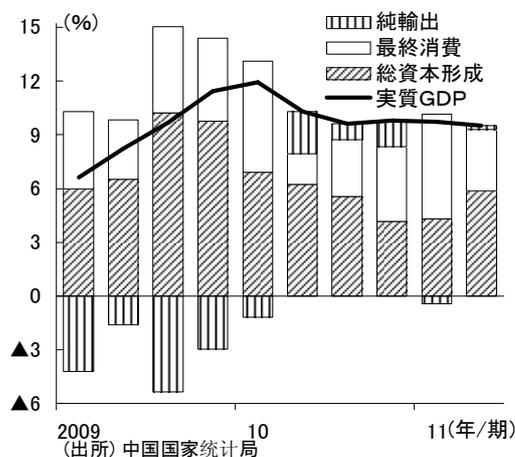


## 再び強まる中国の設備投資ブーム

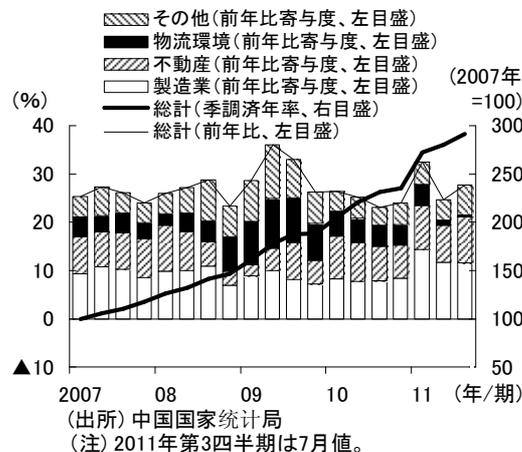
～ 全国的底上げ局面からエリア別局面へ移行の兆し ～

- (1) 中国経済は本年春以降、再び投資が主導する成長軌道に復帰の兆し。国家統計局発表の累計寄与度から逆算すると、総資本形成の寄与度が2011年1～3月期の4.3%から4～6月期5.9%に再拡大(図表1)。外需は、リーマンショック後の反動増一巡から10年4～6月期以降は期を追って寄与度低下。最終消費は昨年春以降、増勢が次第に加速し本年初には春節が盛り上がり。実質GDP寄与度は5.9%に達したものの4～6月期には一転して3.4%と大きく鈍化。食料品を中心にインフレが広がるなか、個人セクターでなく、企業・政府セクターが成長を牽引。本年に入り、外資の直接投資が一段と増勢加速。
- (2) 投資の中身をみると、製造業と不動産投資が二本柱(図表2)。両者で増加分の4分の3。一方、4兆元の景気対策を契機に高速道路や高速鉄道など物流網の整備を中心に急増した物流投資、あるいは環境投資は息切れ。季節調整ベースでみると本年に入り、大きく水準を切り上げた後、月を追って着実に増加。GDPの資本形成は工事進捗に応じて計上されるため、年初の水準切り上げが4～6月期の投資寄与度上昇に作用。
- (3) エリア別動向をみると、昨年まで総じて全土に亘って投資が行われてきたなか、本年に入り三極化の進行が看取(図表3)。①吉林省のマイナスをはじめ黒龍江省や陝西省など投資水準を切り下げる地域、②重慶市や山西省など、従来同様に着実な増加を続ける地域、③江蘇省や浙江省、広東省など、際立ってハイペースの投資が始動した地域。江蘇省では南京や無錫、蘇州など工業用地をはじめインフラ整備が進み、産業化が再加速。浙江省も杭州や寧波を中心に産業化が再加速。いずれも上海に隣接し上海エリア拡大の受け皿に。山東省は韓国に最も近く韓国企業進出の橋頭堡に。広東省は産業高度化に向けた先端企業誘致が本格化。積極的な投資が広がるなか、成長ペース鈍化の懸念小。

(図表1) 中国実質GDP成長率(前年比)



(図表2) 中国名目固定資本投資(前年比)



(図表3) 中国名目固定資本投資の地域別寄与度(前年比)

